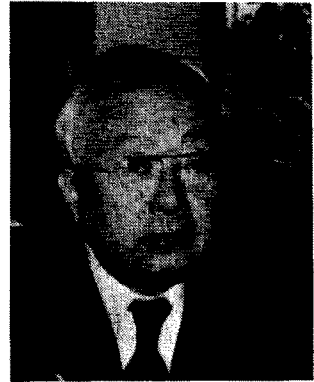


## 会長就任のごあいさつ

国立公害研究所 所長 近藤次郎



このたび、会員諸氏のご信頼を得て日本オペレーションズ・リサーチ学会の名誉ある第15代の会長に就任いたしました。これから2年間、全力をつくして学会の発展に努力したいと思います。

もとより浅学非才の身で十分に皆様のご期待に応えることができないのでお断りすべきとも思いました。しかしながら、よく考えてみますと私もあまり年をとってからでは十分な働きをすることもできませんので、少しは足腰の丈夫なうちに世の中のためになることをすべきであると思ひ直してお引き受けした次第であります。

私は1957年、本学会創設のさいには発起人の1人として努力をいたしました。また、ORに関する研究や論文作成を意欲的に行なった時期もございました。その他、第2回の南フランスのエクス・ザン・プロバンス以来、アイルランドのダブリンの会議までIFORSにもしばしば参加いたしました。また、OR関係の参考書などもいろいろ書きました。そこで、ぼつぼつお礼奉公をすべき時と考えております。

特に最近の森口、松田、横山の前会長はすべて長年の親しい友人でありますので、困った時には手を貸してくださるものと期待しています。これらの方々が敷設された路線を忠実に進めば間違いないものと思います。したがって会長就任に当っても特別な抱負があるわけではありません。有能な副会長、理事の方々のご協力によって本会の発展につくしたいと考えている次第です。

何といたっても学会は会員のために存在するもの

です。しかし本会の会員は大学から産業界にいたるまで広く分布しております。また、その専門とする分野も理学、工学、農学、経済学等というように自然科学、人文・社会科学に広くまたがっております。したがって非常に範囲が広く、学会に対するご要望も多様であると思ひますが、ORという共通の研究の場をとおして会員諸氏の学際的な交流を深め、いわゆる境界領域の学問として発展していく必要があると思ひます。会員の方々の直接のお声を承りたいと思ひています。今年はIFORSの年でもあり、ワシントンでの第10回の会合が成功するよう祈っています。

本学会はすでに25周年において会員の方々の意見を集めて長期計画を策定しております。これは必要に応じて見直しが行なわれますが、この路線を伸ばしたいと思ひ、読みかえしているところで

学会の常として慢性的な経済危機にあります。ORが真に「経営の科学」として役に立つならば、まず学会自身がその実績を示さなければならぬでしょう。科学は実用と違うことがあるのでいろいろむずかしいこともあるようですが、最近しばらく役員席から離れておりましたのでこれから勉強いたします。今後も皆様のご協力やご指導によって大任を果たしたいと考えております。どうかよろしくご支援ください。